

広報大洲

きらめき創造 大洲市
—みとめあい ささえあう 肱川流域都市—

2011
No.83

12

大洲



**地域の救急医療を守るために
～大洲喜多休日夜間急患センター完成～**

地域の救急医療を守るために

大洲喜多休日夜間急患センター完成



12月1日(木)、大洲市東大洲(愛媛県大洲庁舎前)に大洲喜多休日夜間急患センターが開設されます。
今月号では、大洲喜多休日夜間急患センターの必要性について、大洲市の地域医療の現状と課題、地域医療を取り巻く環境とあわせて取り上げます。

救急医療の現状を探る



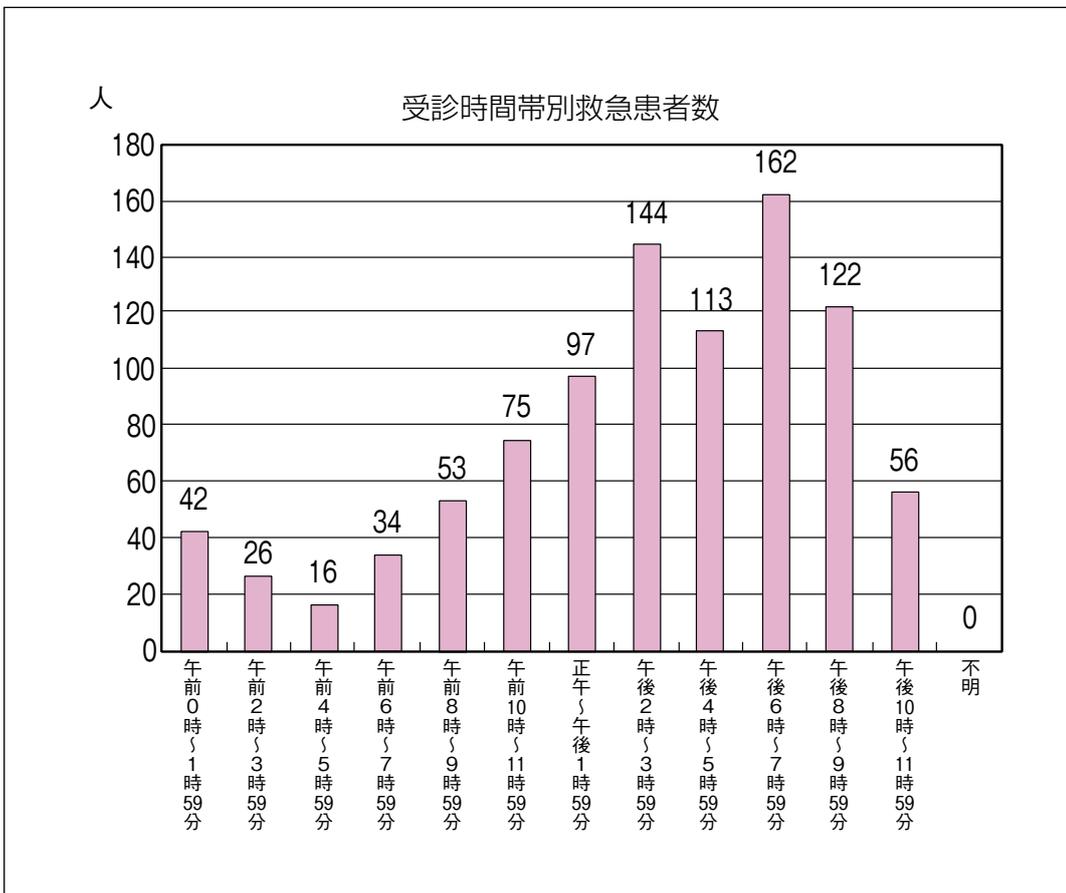
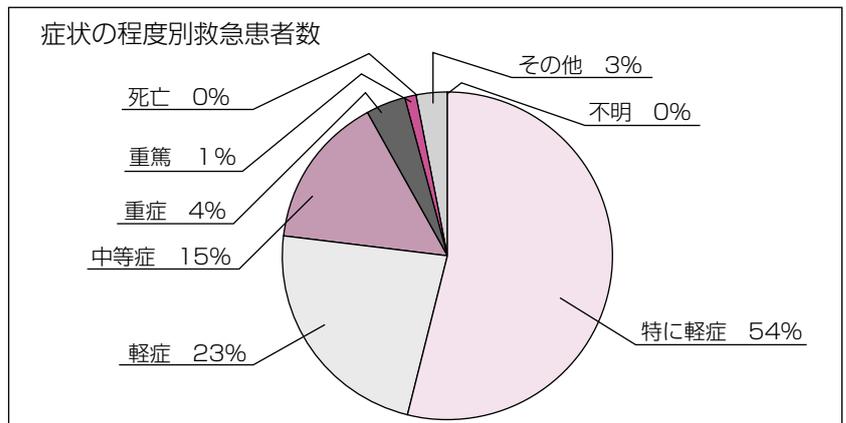
大洲・喜多地区では、これまで時間外の診察を、在宅当番医（休日、祝日などに診察を行う当番病院）と、二次救急医療機関（夜間など24時間体制）で実施してきました。

本来、二次救急医療機関とは、入院治療を必要とする患者に対応する機関であり、軽症患者の受診の増加などにより医師の負担がさらに大きくなっている現状があります。

また、軽症患者の増加が、重症患者に対する適切な医療行為を阻害する要因になり、救急医療に対応できなくなる恐れが生じています。

軽症患者の増加を裏付ける資料として、平成23年7月八幡浜・大洲圏域の救急患者受入実態調査を見てみると、救急患者の78%が自家用車などを利用し、自力で来院して、昨年比10%の増加となっています。

また、救急車で搬入されたり、診療時間外に受診した人の77%が、通院や入院を必要としない軽症患者となっています。



次に、時間別の受診（平日・休日の合計）を見ると、受診時間帯別救急患者数は、午後2時から4時までと、午後6時から8時までの時間帯が最も多く、深夜の時間帯も一定数の患者が絶え間なく受診していることが伺えます。

医師の負担が増加する一方で、大洲・喜多地区の輪番4医療機関では医師の減少が続いていて、地域の救急医療体制の存続が懸念されています。

現状を改善するために

こうした状況の中、大洲・喜多地区の救急医療の確保ならびに二次救急医療機関の負担軽減を図るため、初期救急医療の拠点として大洲市では「大洲喜多休日夜間急患センター」を整備することにしました。

急患センターの完成により、初期救急医療と二次救急医療の役割分担が明確になり、重症患者についても、これまで以上に迅速に対応可能となることが期待されています。



処置室



検査室



輪番二次救急医療機関などの最近の動向をご紹介します。

市立大洲病院は、被ばく低減を図る最新型の高速X線CTスキャナーを整備しました。

喜多医師会病院については、心臓の血管描出に優れている2管球の高性能CTを整備しました。

大洲中央病院は、現在、医療体制を充実・強化するために建物の改修を行っています。

また、加戸病院は、現在の大洲市から内子町に移転・新築し、11月15日(火)から業務を開始しています。

地域医療を支えたい

「地域の救急医療体制を 存続させるために」

社団法人 喜多医師会

会長 村上 一^{かず}生^{たか}

全国で医師不足が叫ばれる中、愛媛県も例外ではなく、勤務医の数が減少しています。特に南予地域の医師の数が著しく減少していて、深刻な状況となっています。

大洲・喜多地域では、本来、初期救急医療で対応する軽症患者について、最初から二次救急医療機関で受け入れてきました。最近では救急搬送される患者数の増加、特に軽症患者の増加により、救急医療に携わる医師や医療スタッフなどの勤務条件が厳しくなっています。その結果、医師が退職し、残った医師についてはさらに勤務条件が過酷になるという悪循環に陥っています。大洲喜多休日夜間急患センターの完成により、二次救急医療機関の負担軽減が図れることに期待しています。

大洲喜多休日夜間急患センターは、社団法人 喜多医師会が管理運営を行い、喜多医師会の会員で

ある医師1人、看護師1人、事務職2人がローテーションで勤務することにしています。24時間の受け入れ体制ではありませんが、365日休むことなく初期医療に対応することになっています。しかし急患センターは、休日や夜間に急に具合が悪くなった人の診療を行う施設で、その体制は万全なものではありません。また、基本的には翌日にかかりつけ医で診察してもらうことを前提とした診療を行います。市民のみなさんには、体制の整っている診察時間内にかかりつけ医に診察してもらいたいと考えています。

また、救急車の適切な利用を心がけることも、救急医療体制を守るために極めて重要なことだと思っています。救急車の台数にも限りがあり、本当に必要な人が緊急時に利用できることが大切です。

大洲・喜多地域の救急医療体制を存続させることは、市民のみなさんが安心して生活を送ることのできる環境を守ることだと思っています。関係機関と連携を図りながら、その取り組みを行っていきたいと考えています。

【急患センターの診療について】

急患センターは、社団法人 喜多医師会の医師に診療にあたっています。診療科目と診療時間については、左記のとおりとなりますので、適正な受診をしていただきますようお願いいたします。

【診療科目】 内科

【診療時間】

・平日、土曜日

午後8時～11時

・日曜日、祝日

午前9時～午後6時

(24時間体制での診療ではありませんので、ご注意ください。)

診察の結果、手術や入院の必要がある場合には、二次救急病院へ紹介していただきます。

なお、小児科の診療は、今までどおり当番医制により診療しますので、広報「日曜・祝日の当番医」をご覧ください。

急患センター（一次救急）は、

主に急な発熱、感冒症状、軽度の腹痛、嘔吐、下痢、めまいなどの症状などを診療します。

輪番病院（二次救急）は、打撲、創傷などの外科的処置、入院を必要とするような症状、救急車での搬送などを診療します。

不明な点がありましたら、急患センターか二次救急病院にお問い合わせください。

【問い合わせ先】

大洲喜多休日夜間急患センター

☎ 23 1156

市立大洲病院

☎ 24 2151

加戸病院

☎ 44 5500

神南診療所

☎ 25 7720

大洲中央病院

☎ 24 4551